

茶の生産から機能性、輸出、経営、マーケティングまで総合的に科学する



食品栄養環境科学研究院附属茶学総合研究センター

中村 順行

- 連絡先 TEL : 054-264-5822 FAX : 054-264-5822
- ホームページ <http://dfns.u-shizuoka-ken.ac.jp/labs/tsc/>

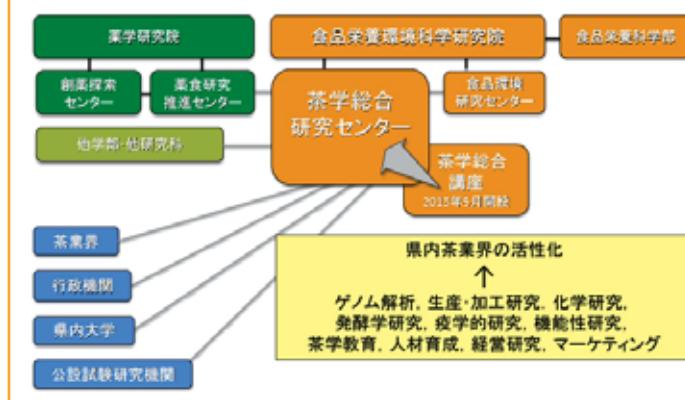


茶、連携、機能性、人材育成、経営、マーケティング、
多用途利用、嗜好特性、需要開拓

茶学総合研究センターは、茶に特化したセンターとして、大学における茶関係情報の一元化と研究の深化を図るとともに、産官民学と相互に連携し、茶の生産から機能性、茶学教育、マーケティングまで幅広く科学し、茶業振興はもとより、社会の発展に積極的に寄与することを目指します。

1. 緑茶の機能性及び疫学に関する研究
緑茶の機能性研究の強化と各種疾病との関連を調査
2. 茶学教育と人材育成
茶の都しづおかを牽引し、お茶の総合的知見を有する人材の育成
3. 茶葉及び茶飲料の嗜好特性の解析
茶の品質特性の評価と嗜好性の解析による販売促進戦略を構築
4. 茶の高付加価値化をマーケティング
消費者の視点に立ったマーケティング戦略の構築

茶学総合研究センターの連携体制



現在、茶は多用途利用が進むとともに、消費形態も大きな変革期を迎えています。この機会を逃さず、連携してビジネスチャンスを活かしませんか？

持続可能な社会のための「茶」の新しい利用法の開発と健康効果に関する研究

環境生命科学科
(茶学総合研究センター) 斎藤 貴江子

- 連絡先 TEL: 054-264-5920 FAX: 054-264-5822
- ホームページ <https://dfns.u-shizuoka-ken.ac.jp/labs/tsc/>



茶, 根, 水耕栽培, 機能性食品, 脳機能, 発酵茶, 茶花

茶の健康効果が科学的に解明されたことから、世界中で様々な茶が開発され飲用されていますが、既存の葉の加工品とは異なる、付加価値があり健康効果が期待できる新しい茶の利用法を考案しています。茶の未知の可能性を追究し持続可能な社会の構築に貢献するために、以下の様なテーマで研究しています。

1. 水耕栽培による茶の根の脳機能改善効果

根の抽出物を老化動物に与えると認知能力低下の改善と寿命の延長効果が確認されたことから、茶の根の新しい有効成分の発見や機能性素材としての利用が期待されます。

2. 乳酸菌を用いた発酵茶の開発とその健康効果

乳酸菌の違いによってレアな発酵茶ができることがわかりました。機能性成分を高濃度に含み、抗酸化活性の高い発酵茶の健康効果について研究を継続しています。

3. 放棄茶園等を有効利用した茶の花のハチミツ生産

茶の花のハチミツには、テアニンが含まれていることを明らかにしました。茶の花のハチミツを生産する環境とシステムを構築し、既存の茶園の有効利用により茶産業の活性化を目指しています。

これらの研究を通して、日本が誇る茶の魅力を世界に発信しています。

水耕栽培による茶樹の生育



香りのよい花



鮮やかな新芽



成長期の根



茶に関する研究を総合的に行うだけでなく、ユニークな視点で対応します。また、ミツバチやハチミツに関しての出張講義も致します。是非お問い合わせ下さい。

食品環境研究センターの取組み



食品栄養環境科学研究院附属食品環境研究センター

若林 敬二

- 連絡先 TEL: 054-264-5784 FAX: 054-264-5904



「食と健康」、「環境と健康」に関する研究の推進、 地域の人達への教育・啓発活動

食品栄養科学部

静岡県立大学は、平成26年4月1日、大学院食品栄養環境科学研究院の附置施設として、食品環境研究センターを開設しました。本センターは、地域における健康と福祉の向上、および地域産業の推進を目指して、「食と健康」や「環境と健康」に関連した研究とともに地域の人達への教育・啓発活動などを行います。

1 食品および環境に係わる研究の推進

食品分野：成分分析、機能性評価、安全性評価等

環境分野：環境分析、リスク評価、環境負荷の低減化、環境の保全方法等

2 教育と啓発活動

食品および環境が健康に与える影響についての情報収集と提供

公開講座、食育および環境教育に関するワークショップの開催等

センター長 若林 敬二

副センター長 三浦 進司



本センターは、食・環境・健康の研究・情報発信拠点として、食の機能性に関するシステムатイックレビューを行っています

ヒト正常皮膚線維芽細胞増殖効果を示す植物成分の検索

環境生命科学科
(食品環境研究センター) 薬科 力

・連絡先 TEL: 054-264-5689



ヒト正常皮膚線維芽細胞、キヨウチクトウ科植物、
ステロイド配糖体、トリテルペン、化粧品

皮膚の表皮・真皮は表皮細胞、線維芽細胞及びこれらの細胞の外に皮膚構造を支持するコラーゲンやエラスチン等の真皮細胞外マトリックスによって構成されており、若い皮膚においてはこれらの皮膚組織が恒常性を維持することで水分保持、柔軟性、弾力性等が確保され、肌は外見的に張りや艶のあるみずみずしい状態に保たれています。しかし、加齢の進行や紫外線の照射は真皮細胞外マトリックスの主要構成成分であるコラーゲンやエラスチン等の産生量の減少をもたらし、加えてこれらの変性や分解を引き起こし、その結果、皮膚（肌）は角質の異常剥離を始め、張りや艶を失い、肌荒れやシワ等の老化症状を呈する様になります。従って、皮膚の老化に伴う変化（シワの形成、張りの消失、弾力性の低下等）には、コラーゲンやエラスチン等の真皮細胞外マトリックスの減少や変性が関与しています。

皮膚の真皮中に存在する線維芽細胞は真皮細胞外マトリックスであるコラーゲンやエラスチン、基質成分であるヒアルロン酸、コンドロイチン硫酸等を産生し皮膚の保湿と弾力を保っています。皮膚の老化は真皮細胞外マトリックスの減少が関与していることから、線維芽細胞を賦活（増殖）させる事は、これらマトリックス成分の産生をもたらし、皮膚の老化防止に有効であると考えられます。現在、ヒト正常皮膚線維芽細胞増殖を指標として、植物中より肌の老化症状の防止・改善に優れた効果を発揮する物質の検索を行い、植物成分の機能性を確認すると共に、成分含有植物の付加価値を検討しています。

これまでに線維芽細胞増殖活性が報告されているキヨウチクトウ科（旧ガガイモ科）植物に着目しました。同科植物中、*Asclepias* 属、*Cynanchum* 属の両属に活性が認められた事から、これらはステロイド配糖体によるものと予想され、ヤナギトウワタ (*Asclepias tuberosa*) の根に含まれるステロイド配糖体の一部に皮膚線維芽細胞の増殖効果を確認しました。これとは別に、キク科 *Taraxacum* 属植物のカントウタンポポの根に含まれるトリテルペン類にも増殖効果を見出しました。



ヤナギトウワタ



カントウタンポポ



植物由来成分の機能性を目的として、化粧品に含まれるプラセンタ様作用を持つ成分の検索を行うものです。

生活習慣病の発症予防・進展抑制をめざす食品と食事の設計



「ふじのくに」みらい共育センター

合田 敏尚

●連絡先 TEL: 054-264-5441
E-Mail: gouda@u-shizuoka-ken.ac.jp



糖質の消化・吸収、糖尿病、食後高血糖、慢性炎症、酸化傷害、バイオマーカー

糖尿病や肥満などの生活習慣病の発症の前段階では、食後高血糖などの代謝の搅乱がみられます。これが局所の炎症を促進し、動脈硬化を介して大血管障害の誘因になることが明らかになってきました。生活習慣病の予防のためには、炎症の進展を抑制できる食事のしかたや食品の選択のしかたが重要です。これまで、断続的に起こる食後高血糖による炎症反応に焦点を当て、その炎症をモニターできる血液指標を開発してきました。現在はその指標を食品や食事の設計に応用することを試みています。本指標は、糖尿病境界領域者に対する糖尿病発症リスクや糖尿病罹患者に対する合併症リスクの評価指標としても用いることができます。また、本指標は、血糖コントロールを目的にした食品や医薬品等の設計のためにも有用です。

炎症バイオマーカーを用いた食品・食事の評価

抗酸化や炎症抑制
を期待できる食品



野菜



嗜好飲料



香辛料



食後高血糖関連指標

インスリン抵抗性関連指標

酸化傷害関連指標

抗酸化・炎症抑制
食品成分・味・香り

疾病リスク低減
健康増進

エビデンス

食品・食事の評価



一人一人の健康長寿



日本人における生活習慣病リスクに関するバイオマーカーの研究実績が豊富です。機能性食品成分や食事・献立の有効性を評価するための指標についてアイディアが提供できます。

言語とコミュニケーションの哲学・倫理学

国際関係学科 飯野 勝己

•連絡先 E-Mail : k-iino@u-shizuoka-ken.ac.jp



キーワード

哲学、倫理学、言語哲学、コミュニケーション、言語行為論

20世紀イギリスの学者・J.L.オースティンによって提起された「言語行為」の観点を軸にして、「言語とコミュニケーションの哲学」およびその展開としての倫理学的問題を取り組んでいます。

①「言語行為」という観点の理論的整備

言語行為という観点の中心に、「発語内行為」という概念があります。たとえば「私は明日会議に出席する」という発言の場合、たんなる予定の「言明」になることもあります。他者に向かっての「約束」になることもあります。これら「言明」や「約束」が発語内行為と言われるもので、コミュニケーション行為の中軸をなすものと考えられています。これらが何によって決定づけられるのか、なぜそれが重要なのか、といった今も決着をみていない問題に取り組み、コミュニケーション行為の原理や構造の解明を目指しています。

②上記に関連する倫理的問題の探究

たとえば「約束」が以後の自己の行動を拘束するように、言語行為（発語内行為）は実効的な力を持ちます。そのもつとも苛烈な現れが、「言葉の暴力」という問題です。ネットコミュニケーションの普及とともに新たな様相で社会に蔓延する言語的暴力という倫理的問題に、言語哲学の観点から取り組んでいます。



テーマに関連する著書・訳書
飯野勝己『言語行為と発話解釈——コミュニケーションの哲学に向けて』勁草書房、2007年
J.L.オースティン／飯野勝己訳『言語と行為——いかにして言葉でものことを行つか』講談社学術文庫、2019年

①新興・途上国のマクロ経済モデル分析 ②アジア途上国の経済開発、中国の台頭と日本のODA

国際関係学科 飯野 光浩

•連絡先 TEL : 054-264-5382 FAX : 054-264-5382



マクロ経済学、開発経済学、国際経済学、新興・途上国、アジア経済

①新興・途上国のマクロ経済モデル分析

現在、中国、インドなどのBRICSに代表される新興国が世界経済で存在感を増している。これらの経済は先進国にない特徴をもっている。それは一国経済に占める農業部門の比率の高さである。現在の主流のマクロ経済モデルは基本的に先進国を想定しているので、生産部門として工業(製造業)のみを仮定して分析を進めている。

本研究では、その主流のマクロモデルに農業部門を導入した新興・途上国向けの開発マクロモデルを構築して、金融政策・財政政策のマクロ経済政策やその他の政策などが経済や農業部門、農村都市間労働移動などに及ぼす効果を理論的に研究・分析している。

②アジア途上国の経済開発、中国の台頭と日本のODA

アジア地域というと世界経済の成長エンジンということで注目されがちであるが、もちろんすべてのアジアの国が豊かであるというわけではない。ラオス、カンボジア、ミャンマーなどアジアにはまだ開発途上の国が多い。従来、これらの諸国の経済開発はメコン流域という地域の枠内での開発の観点から論ぜられることが多く、アジア開発銀行(ADB)などの国際機関もその観点から開発を促進している。

しかし、現在の状況を鑑みると、この観点は重要な点を見逃している。それはこのアジア途上国地域における中国の台頭である。ラオス、カンボジア、ミャンマーなどでは中国の多額の経済援助により、その存在感が増加している。日本は経済状況などにより政府開発援助(ODA)を削減しており、その中でいかに効率的にアジア途上国地域にODAを配分して、日本の存在感を高めていくかは重要な課題である。この課題を、関係者へのインタビューや資料収集などによる現地調査や各種統計データを用いて実証的に研究している。

エスニック関係と国際労働力移動—東南アジアの事例から—



国際関係学科 石井 由香

• 連絡先 TEL : 054-264-5327 FAX : 054-264-5327



シンガポール、マレーシア、エスニック関係、外国人労働者、
経済発展、異文化理解

グローバル化の時代において、異文化をいかに理解するか、また違う考え方を持つ人々とどのように共存していくのかが、大きな課題となっている。東南アジアは文化的多様性に富む地域であり、そのなかでも私はマレーシア、シンガポールにおいて研究を行ってきた。この両国とも、人口比率は異なるが、マレー人、華人、インド人といった宗教、言語など多様な文化的背景を持つ人々の間にいかに良好な関係を築くかという課題に、国の政策において、また人々の日々の実践において、試行錯誤を続けてきた国である。さらに、どちらの国も経済発展に伴い外国人労働者の受入国になっており、外国人労働者と国民との関係も注目されるところである。本研究は、世界への眼を開くと同時に、多様な文化的背景を持つ他者との関わり方を考える契機となる内容を持っている。



マレーシア、シンガポールの現地のエスニック関係や文化に関する基礎的な情報提供、異文化環境における人間関係構築に伴う問題についての相談等、一定の協力ができる可能性がある。

「食の安全」と国際貿易



国際関係学科 石川 義道

- 連絡先 TEL: 054-264-5112
- ホームページ <https://researchmap.jp/y.ishikawa?lang=ja>



世界貿易機関（WTO）、国際通商法、食の安全、
国際食品規格委員会（CODEX）、国際放射線防護委員会（ICRP）

2018年度の我が国の食料自給率はカロリーベースで37%である。単純化を恐れずにいえば、我々は普段の食事で約6割を輸入食品から摂取していることになる。ともすれば我々は「国産食品＝安全、輸入食品＝危険」というイメージを抱きがちであるが、実際には食品衛生法で定められる検査・監視を通じて、輸入食品についても国内産品と同様に安全性が確保されている。すなわち食の安全は原産国だけで決まるものではなく、安全な輸入食品もあれば、危険な国産食品も存在するのである。したがって、眞の意味で食の安全を実現するためには、消費者が「国産か否か」に加えて、「安全か否か」という観点から食品を購入・摂取するリテラシーを身につけることが重要となる。このような問題意識から、静岡県内産食品と輸入食品のあらたな「共存」のあり方を模索している。



ゼミで見学に訪れた名古屋税關・清水税關支署（本人撮影）



輸入食品の安全性を確保するための国際・国内ルールのあり方について解説・調査が可能。

女性活躍促進、男女共同参画、ワーク・ライフ・バランス、家族問題の研究

国際関係学科 犬塚 協太

・連絡先 TEL : 054-264-5329 FAX : 054-264-5099



家族、男女共同参画、ワーク・ライフ・バランス、ダイバーシティ、
子育て支援

少子高齢化による労働・消費人口の減少、若年世代の流出とそれに伴う地域の衰退、そして厳しい労働環境に対する働く人々の将来不安など、現代日本の社会・経済システムが抱える根本的な問題状況を踏まえて、これから企業に不可欠なのは、性別を問わず、優秀な人材を確保し、その定着と活用を図る男女共同参画に立脚したダイバーシティ経営戦略である。子育てや介護と仕事を両立できる環境を整備することは、あらゆる世代の男女が「時間制約」のもとでしか働けないからの社会構造のもとで、企業にとって経営上の必須の視点となる。こうした観点を中心に、特に女性の活躍を促進し、企業におけるダイバーシティ、従業員のワーク・ライフ・バランス実現、次世代育成支援を充実させる方策に資する研究を進めている。



- ・女性の活躍促進策のポイントを示し、経営戦略としてのダイバーシティに基づく効果的取組が実現できる。
- ・ワーク・ライフ・バランス実現のための方策の具体的提示や、その効果的な運用方法を明らかにできる。

日本人はいかに生きたか—日本仏教・武士道

国際言語文化学科 木澤 景

・連絡先 TEL: 054-264-5331



日本仏教、武士道、倫理学、修行、天台思想、浄土思想、念佛、
覚悟、敵討

日本仏教や武士道を題材に、かつての日本人が自分の人生をいかなるものと捉えてそれぞれの生を営んだかという倫理学的研究を行っている。とくに、「修行」をキーワードに、修行者が何を目指し、何を己に課して日々を生きたかに注目している。かつての日本人の人間観や世界観をふまえ、今日に生きる我々との違いや通底する要素を浮かび上がらせる事により、現代人の生についても普段意識されない方面から光をあてるこことを目指している。研究テキストは、地獄・極楽の記述で有名な源信（942-1017）の『往生要集』や、「武士道と云は死ぬ事と見付たり」の語がよく知られている山本常朝（1659-1719）口述の『葉隱』などを中心に扱っている。研究テーマは仏教では天台思想、浄土思想（念佛）、武士道では覚悟や敵討の問題などである。



国際刑事裁判を主な題材とした、国際法上の主体とそれらの相互関係の研究

国際関係学科 北野 嘉章

- 連絡先 TEL: 054-264-5328 FAX: 054-264-5328
- ホームページ <https://researchmap.jp/y-kitano/>

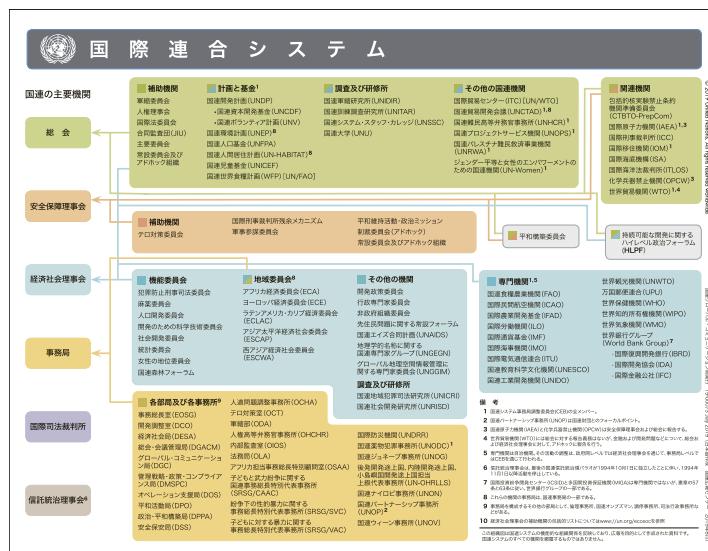


国際刑事裁判、国際連合、国際刑事裁判所、国際法、国際組織法

私はこれまで、国際刑事裁判に関する制度や事例を主な題材として、国際連合（以下「国連」）や国際刑事裁判所といった国際法上の主体の特徴とそれらの相互関係を研究し、その成果を論文等で発表してきた。また、私は本学で、国連などの国際組織（「国際機関」「国際機構」とも呼ばれる）のあり方を規定する国際組織法（「国際機構法」とも呼ばれる）の教育を主に担当している。ところで、国際組織その他の国際法上の主体に関しては、各々の仕組みや相互間の関係がメディアなどで正確に伝えられないことが少なくない。例えば「国連の人種差別撤廃委員会」という表現がなされるが、同委員会は人種差別撤廃条約に基づき設置され、国連憲章に基づく国連には属していない。私は今後も、堅実な研究を積み重ねつつそれを活かした教育や社会活動を行い、国際社会の構造の正確な理解を広めたいと考えている。



「米国ニューヨークに所在する国連本部の建物（筆者撮影）」



「国連システムの概念図（国連広報センターのウェブサイトより）」



国際刑事裁判や国際人権保障の解説の制作などに関して、相談やチェックなど一定の協力を行うことができます。

歴史認識の越境化と公共史の実践



国際言語文化学科 剣持 久木

・連絡先 TEL : 054-264-5253 FAX : 054-264-5253



歴史認識、公共史、ヨーロッパ、歴史教科書、博物館、東アジア

オバマ大統領の広島訪問によって日米間の歴史認識問題は大きく前進したかもしれないが、東アジアでは歴史認識問題は依然大きな障害になっている。本研究は歴史認識問題の解決のために、地域統合が進むヨーロッパで進行中の「公共史」の実践に注目する。歴史認識問題を公共史の問題と捉え直すならば、国際的な次元と国内的な次元の二つが存在する。本研究は、この二つの次元における公共史の実践を総合的に検討し、歴史研究と社会のニーズとの相関関係という視点で考察する。国際的には、国境を超える歴史教科書、博物館などの状況を、国内的には多様なメディアを通じた歴史研究の成果の啓蒙/受容の関係性を検討する。いわば、歴史認識をめぐってタテ(専門家/一般)とヨコ(国境)に存在してきた境界を超える可能性についての研究である。

ヨーロッパにおける公共史の実践

国境を超える歴史教科書と博物館: ヨコの公共史



独立記念日教科書



ドイツ・オランダ
共通教科書



ペロンヌ第一次大戦博物館



ドレステンヨハネス・ラウ博物館

歴史研究の成果の啓蒙: タテの公共史



フランスの歴史ドラマ



ドイツの歴史ドラマ



フランスの歴史映画



歴史家ヴィンクルの連邦議会講演
(2015年5月8日)

下段右の写真 引用元: https://www.bundestag.de/webarchiv/textarchiv/2015/kw19_gedenkstunde_wkii_rede_winkler-373858



日本と近隣諸国との間の歴史認識問題解決のための具体的な提言を行います。

東南アジアにおける「人間－環境」関係を主題とした地理学的研究



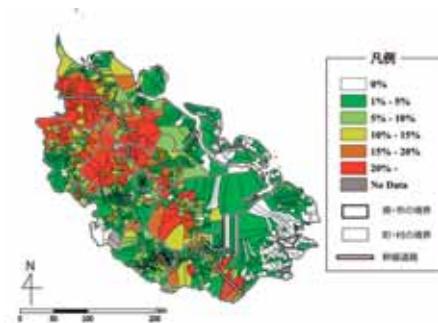
国際言語文化学科（アジア文化研究分野） 小泉 佑介

・連絡先 TEL : 054-264-5364



人文地理学、ポリティカル・エコロジー、都市－農村関係、
インドネシア、東南アジア

近年の東南アジアは、急速な経済発展とともに環境問題や都市問題などが顕在化しつつある中で、社会的・文化的・政治的な「大変動」の真っただ中にあります。私はこれまでインドネシアをフィールドに、人文地理学の理論や方法論（特にポリティカル・エコロジー）に依拠しながら、プランテーションを主力産業とする地域の社会構造がいかなる変化を遂げているのかについて研究を進めてきました。研究手法としては「ミクロな視点」と「マクロな視点」の融合的なものを目指しており、農村を自分の足で歩きながら地域住民や政府関係者の方々へのインタビュー調査を主軸に据えつつ、人口センサスをはじめとする政府の各種統計データを用いたマクロな地域統計分析にも力をいれています。



(図1) 各村の総人口に対する外部移住者の割合を示した地図



(図2) アブラヤシ・プランテーション



東南アジアの環境問題や開発問題についても、実践的な活動を通じて取り組んでいこうと思っています。

フランス現代政治および欧州外交史、欧州の外交安全保障



国際関係学科 小窪 千早

• 連絡先 TEL : 054-264-5335



フランス、シャルル・ドゴール、ヨーロッパ、欧州統合、EU（欧州連合）、
CSDP（共通安全保障防衛政策）、NATO（北大西洋条約機構）、日欧関係

フランスの政治外交史、特にドゴール政権期から現代に至るフランスの外交・安全保障政策についての研究を行うとともに、EUやNATOを中心とするヨーロッパの政治・外交・安全保障政策の研究を行っている。ヨーロッパの統合は外交・安全保障分野にも及んでおり、またとりわけロシアのウクライナ侵攻以降、欧州地域の安全保障は国際秩序の動向そのものにも重要な影響を及ぼしている。また近年では、インド太平洋地域における日本と欧州諸国との安全保障協力も急速に緊密になっている。フランスなど欧州諸国の政治とEUやNATOの動向を分析することにより、ヨーロッパの重層的な理解に努めるとともに、現在の国際政治における日欧協力の可能性についても研究を進めていきたいと考えている。



フランスなど欧州諸国の政治やEUおよびNATOの動向など、現在の欧州情勢や国際安全保障に関する分析などで一定の協力ができます。

アフリカ地域研究、グローバリゼーション研究、人類学

国際関係学科 湖中 真哉

・連絡先 TEL : 054-264-5267 FAX : 054-264-5099



東アフリカ、ケニア、牧畜民、遊牧民、マーサイ、サンブル、国際開発、
国際協力、国内避難民、経済人類学、生態人類学、物質文化

1990年以降、東アフリカで長期の臨地調査研究に従事している。研究のおもな対象は、ケニア・タンザニアに居住し、牧畜を主な生業とするマー系の人々(マーサイ、サンブル等)専門は学際的な総合的地域研究。極度の貧困、国際開発、国際協力、紛争と難民、平和構築、環境と資源、異文化表象とメディア、フード・セキュリティとセーフティ・ネット、緊急人道支援等、グローバリゼーションに関連する諸課題を研究している。

外国国家に対する民事裁判手続を巡る諸問題

国際関係学科 坂巻 静佳

(本研究内容についてご興味のある方は、地域・産学連携推進室までご連絡ください。
TEL : 054-264-5124 E-Mail : renkei@u-shizuoka-ken.ac.jp)



外国国家，民事裁判手続，商業的取引，労働契約，
国連国家免除条約

私人又は私企業が外国国家又はその国家機関と取引を行う場面は日常的に存在する。売買契約を締結し、商品を納入したのに代金を支払ってもらえない場合、私人との取引であれば、最終的には民事裁判に訴えることができる。では契約違反した相手が外国国家であった場合、私人に対するのと同じように、外国国家に国内裁判所で訴えを提起することはできるのであろうか。

20世紀半ばまでは、外国国家を国内裁判所では訴えることはできないとの理解も根強く存在した。しかし現在、商取引、雇用契約、不法行為等の一定の事案については、外国国家に対しても国内裁判所で訴えを提起し、また場合によっては判決を執行できる場合があるとの理解が多数説となっている。

そこで、どのような場合に外国国家に訴えを提起し、また外国国家に対する判決を執行できるのかについて研究している。



国際公法に関する諸問題についてのレクチャー等に可能な限り対応します。

自由・民主主義を追求するアメリカ政治外交

国際関係学科 佐藤 真千子

•連絡先 TEL : 054-264-5385
E-Mail : machikos@u-shizuoka-ken.ac.jp



信教の自由, LGBT, 人権, 企業, 制裁, 説明責任 (アカンタビリティー), 表現の自由, プライバシー, アメリカ

建国理念の自由・民主主義を追求するアメリカ合衆国の政治・外交を研究しています。特に諸外国の人権や自由の問題に関する外交政策の形成過程に注目しています。アメリカは人権侵害に関与している個人やその協力者に対して入国禁止、資産凍結などの経済制裁を課しています。またグローバル化した世界の市民・団体が各国の企業の労働環境を注視しています。

あなたの会社、職場、取引相手は大丈夫ですか。日本も例外ではありません。ある日突然、会社の関係者が制裁対象になったり、グローバル化した社会の市民があなたの会社、工場、商品に対して反対運動や不買運動を展開したりするかもしれません。世界があなたの会社をどんな視点で見ているかご存知ですか。いくつかの国際的な指標、制裁、企業への反対運動について実例を紹介しつつ、会社が怠ってはいけない配慮、取り入れるべき取り組みについて情報提供します。



ホワイトハウスや議会の前で特定の国に対するデモを行う人々



特に、海外で企業活動を行っている方々、これから進出しようと考えている方々に参考にしていただきたい情報やアドバイスを提供します。

COIL 型教育の実践と効果

国際言語文化学科 澤崎 宏一

・連絡先 TEL : 054-264-5352



COIL 型授業、日本語、第二言語習得

COIL とは、Collaborative Online International Learning の略語で、インターネットを活用して離れた 2 つの（異文化の）教室が共に学び合うための教育方法のことと言います。これまで、静岡県立大学と米国の大学、そして国内の大学と、Padlet、Flipgrid、Zoom 等を用いて学生間の協働学習を試みています。

また、本学が上智大学と共同開催する静岡スタディツアーオーにも協力しています。

実践一覧：接続先の例

2021年度 ノースカロライナ大学シャーロット校（米国）

ゴンザガ大学（米国）

三重大学

2020年度 ノースカロライナ大学シャーロット校（米国）

ゴンザガ大学（米国）

オークランド大学（米国）

テキサス大学（米国）

三重大学

A screenshot of a Flipgrid interface. At the top, there's a navigation bar with 'Home', 'Groups', 'Discover', 'Create', and 'Sign In'. Below that is a video thumbnail of a man in a yellow shirt sitting in a library. The video title is 'Hello from University of Shizuoka!'. Underneath the video, it says '10 Responses'. There are 10 small video thumbnails below the main one, each with a play button.

A screenshot of a Padlet board titled 'Global Exchange'. The board has a grid of 10 items, each containing a small video thumbnail and some text. The items are arranged in two rows of five.

世界政体／世界文化の理論構築に貢献する グローバル・テスト・ガバナンスの研究

国際言語文化学科 澤田 敬人

・連絡先 TEL: 054-264-5254 FAX: 054-264-5254



世界政体／世界文化、グローバル収斂理論、オーストラリアの NAPLAN、
グローバル・テスト・ガバナンス、新自由主義、プリンシパル＝エージェント関係、新制度主義、脱連結、ハイステイクス性

OECD の PISA などに代表される国際学力調査への参加国が徐々に増えている。その一方で先進国・発展途上国・新興国の別を問わず世界各国は自前の学力調査を実施する政策を精力的に進めている。グローバル化した時代における国際と国内双方のテスト政策を分析する視角として、本研究では国民国家／国民文化と同じ機能を残しつつも国境を越えたより大きな単位として世界政体／世界文化を指定し、なぜ世界各国は同時に国際学力調査と自前の国内学力調査を行う判断に至るのかを明らかにする。このように世界政体／世界文化の中でグローバルに収斂する理論を提示しつつ、世界各国に見られる判断の差異については、国際・国内双方のテスト政策に見られるハイステイクス性に重点を置いて各国事例を積み上げている。ハイステイクスなテストは状況に応じて簡単にローステイクスに移行し、その逆の向きも確認されている。本研究ではとりわけオーストラリアの国内学力調査である NAPLAN によるテスト政策を各国事例の一つとして精査している。

[第7章] 漂流する知的難民

～外国人ポストドクの実態と問題点を中心に～（澤田敬人）…181

はじめに	182
1 ポストドク問題におけるマイノリティの複合性	183
2 ポストドクターの生き残り戦術	187
3 ジェンダー化されてマイノリティになる女性	191
4 外国人ポストドクターのキャリアパス	193
5 博士人財に向けた活動の達成状況と外国人ポストドク	195
おわりに	200
注	201
参考・引用文献一覧	202
〈コラム〉「科学技術基本法」（澤田敬人）	206



本研究で論じている世界政体／世界文化は世界で統一的な価値がもしあるとしたらそれは何なのかを追究しています。人類文化の多様性の研究で道に迷ってしまったかたは、ぜひ本研究をヒントに再出発し目的を遂げてください。

東南アジアのイスラーム



国際言語文化学科 塩崎 悠輝

- 連絡先 E-Mail : shiozakiyuki@u-shizuoka-ken.ac.jp
- ホームページ <https://db.u-shizuoka-ken.ac.jp/show/i-shiozakiyuki.html>



イスラーム、イスラーム法学、東南アジア、マレーシア、
インドネシア、ファトワー、スーウィズム、ロヒンギヤ、ウラマー

東南アジア、特にマレーシアやインドネシアにおけるイスラームについて研究しています。特に、イスラーム法学の分野の研究が中心です。中東やインドとの交流を通して、東南アジアのイスラーム法学が発展してきた歴史が主な研究課題です。東南アジアでイスラームがどのように学ばれているのか、また、東南アジアから中東へイスラームについて学ぶために留学する人々についても研究しています。著書に、『国家と対峙するイスラーム　マレーシアにおけるイスラーム法学の展開』(作品社、2016年)などがあります。

東南アジアにおけるイスラームについての研究の一環として、イスラームを理念に掲げた政治運動、ロヒンギヤ難民問題、日本に居住する東南アジアのムスリムなどについても研究しています。



図1 東南アジアで学ばれてきたイスラーム法学の古典書



図2 マレーシアのイスラーム学校で学ぶ生徒たち



東南アジアのイスラーム団体、イスラーム教育機関、政治指導者に精通しています。

地域の文化財「羽衣」の教育・観光への活用 —学生×産官学による地域活性化—



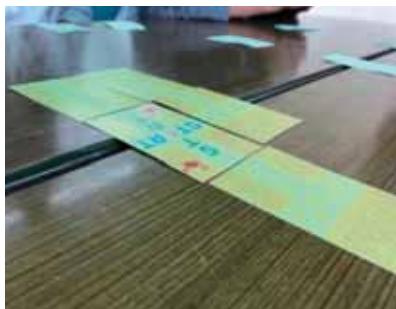
国際言語文化学科 鈴木 さやか

•連絡先 TEL: 054-264-5351 FAX: 054-264-5351



能「羽衣」、地域の「物語」の活用、学生による地域貢献、
「羽衣」絵本

静岡・三保松原を舞台とする能「羽衣」を、地元の文化・歴史を学ぶための教材として、また地域活性化のための観光資源として役立てるための研究を行っています。2015年には観世会副理事長の山階彌右衛門氏の監修のもと、「羽衣」絵本を製作し、同年に学生約10名と「羽衣つたえ隊」を結成。静岡県下の子どもたちに読み聞かせ活動を行うとともに、様々な外国語版の製作とそれを用いた観光事業を行っています。学生発の企画として、羽衣ゲームや地元の企業とコラボした天女の衣装の制作、「羽衣」や三保を紹介するパンフレットの発行などを行った他、静岡市役所との連携による「羽衣」アニメーションの制作、SPAC(静岡県舞台芸術センター)所属俳優と静岡在住の音楽家による「羽衣」劇の上演など、「羽衣」を軸とした地域活性化事業は様々な広がりを見せてています。



羽衣カードゲーム



羽衣絵本



学生の柔軟な発想、楽しむ力が、本活動のアピールポイントです。「羽衣」を生かした学生たちとのコラボ企画をお待ちしています。

第二言語の知識と習得のメカニズム

国際言語文化学科 須田 孝司

・連絡先 TEL : 054-264-5357



第二言語習得、英語教育

日本人英語学習者の文法能力と即時的な言語理解の過程について研究しています。日本語と英語の文法構造について生成文法理論に基づき分析した上で、日本人が日本語や英語で書かれた文をどのように理解しているのか検証しています。

日本人英語学習者の文理解の過程が解明されれば、日本人が漠然と感じている英語に対する不安（「日本人だから英語ができない」等）を取り除くことができ、日本人の英語に対する学習意欲を向上させることができます。また、人間の言語習得の過程が明らかにすることができるれば、言語障害者の言語機能の回復過程の測定・リハビリテーション等にその知見を応用できる可能性があります。



中国共産党の適応力と日本の対中政策

国際言語文化学科（国際関係学研究科） 講師 一幸

・連絡先 TEL: 054-264-5303 FAX: 054-264-5303



中国、中国共産党、適応力、日中関係、一带一路

共産党の一党支配下にある中国(中華人民共和国)の政治と外交を研究しています。

- 1 .中国共産党の統治は相対的に安定しているというのが現時点での評価です。それは第一に、国家機関に対する党指導が徹底しているからです。党 = 国家体制にある中国の場合、「国家機関」の範疇は極めて広く、党自身が国家機関の頂点に位置しています。第二に、指導の徹底というハードな側面と同時に、党は、社会の状況に応じて自らも変容し、また一定の民意を取り込むという政治的適応性を有しているからです。
- 2 現指導部の進める外交政策は、世界第二の経済力と軍事力を背景に、強硬さを強めているように思われます。それが物理的力の有効性に対する確信によるのか、それともそのボトムラインを確認するプロセスのさなかにあるのか、今後見極める必要があると思います。



中緬原油パイプライン標識



中緬国境



インドシナ半島における中国企業の進出ぶりにつき、近年の現地調査に基づいた知見をもとに、日中関係のありかたについてともに考えたいと思います(上の写真は、2014年12月にミャンマーで撮影)。

ストレスと健康の心理学

国際言語文化学科 園田 明人

・連絡先 E-Mail : sonoda@u-shizuoka-ken.ac.jp



心理的ストレス、適応、健康、学習性無力感、学習心理学、
ポジティブ心理学、ウェルビーイング

ストレスと適応・健康、無気力、抑うつなど、臨床的問題の基礎メカニズムを、心理学の観点から解き明かそうとする、実証的研究を行っています。

基礎メカニズムの中でも、パーソナリティ要因の作用や、環境刺激に対する認知・連合学習のメカニズム、抑うつや動機づけに及ぼす効果などを明らかにする研究などをを行っています。

最近は、オptyimism/pejorativeやポジティブ・イリュージョンと適応、ウェルビーイングとの関係に関心を持っています。また、産業場面や教育場面の問題、さらには震災ストレスや、中高生のネット依存の問題など、より現実的な問題に寄与する研究も行っていきたいと考えています。

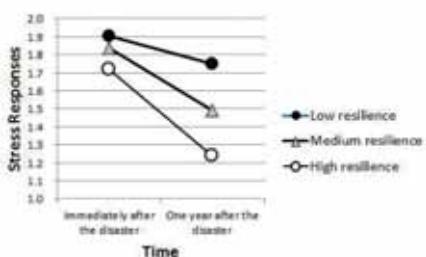


図1 精神的回復力と震災ストレス反応：
震災直後は、精神的回復力に関わらずストレス反応が強いが、1年後は、精神的回復力が高い方が、ストレス反応が弱い。
(園田, 2013)

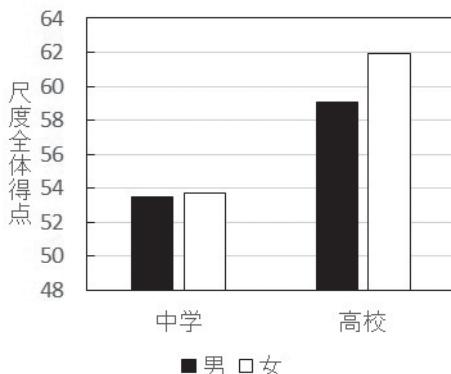


図2 中高生版ネット／スマホ依存傾向測定尺度の開発：高校生は中学生よりも依存尺度の得点が高かった。
(園田, 2019)



研究スタッフがいないため、共同研究を御希望の方は、お互いに分担して、協力しながら進めることを希望します。

アフリカにおける地域の特性と潜在力を活かした 災害対策と開発援助



国際関係学研究科 孫 晓剛

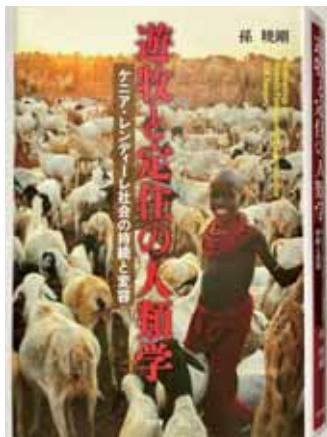
・連絡先 TEL : 054-264-5322 FAX : 054-264-5322



アフリカ、気候変動、自然災害、開発援助、地域の潜在力、
多様性、ケニア、遊牧民

21世紀はアフリカの世紀と言われています。アフリカの国々は今、政治の安定化、急速な経済成長、そして多様な自然環境と社会・文化を活かして発展を続けています。私は以下のテーマで研究を進めるとともに、アジアとアフリカの理解・交流・協力の促進をめざしています。

- 1) アフリカの乾燥・半乾燥地域に暮らす遊牧民の生業と社会・文化に関する生態人類学的研究
- 2) グローバルな気候変動とともにアフリカの環境変化と自然災害の増加に対する地域社会の対応と地域間比較
- 3) 地域の潜在力（多様な自然環境と在来の知識・技術・伝統的な対応など）と、防災科学や開発援助を融合した総合的な災害対策の構築
- 4) アフリカを中心とした海外学生実習の企画・運営
- 5) アフリカに関する文化理解や国際交流を支援するためのデジタル映像・写真ライブラリの製作



小さな技術革新が大きな変化をもたらす：長年重い水タンクを背負って運んだ遊牧民の女性たちは、最近このローリング水タンクを導入して生活を劇的に改善した。



地域社会のニーズを理解し、地域の潜在力を活かし、草の根レベルの支援とSDGsの実現に目指しています。

1. 地域社会の多文化共生

2. 在日フィリピン人の介護人材育成

国際関係学科 高畠 幸

・連絡先 TEL : 054-264-5323 FAX : 054-264-5323



地域社会、多文化共生、在日外国人、フィリピン人、介護

- 1 地域社会の多文化共生に関する実証的研究。外国人住民の組織化、地域の日本人住民への啓発を含めた総合的な関わりを模索しつつ、各地域の実情にそくした地域づくりを側面的に支援している。
- 2 在日フィリピン人および経済連携協定(EPA)により来日したフィリピン人介護福祉士候補者の職場と地域社会での適応に関する質的・量的調査。在日外国人介護者のなかでも特に多いのがフィリピン人で、中年期をむかえた永住女性にとっては介護職が数少ない安定就労の場となっているのも事実だ。また、2009年からはEPAの枠組みでもフィリピンから介護者が来日している。彼らが介護現場で定着し、長期にわたり就労可能な人材となるために必要とされる就労環境や地域社会での受け入れについて調査を続けている。



1. 平安時代和文の語彙語法の研究
2. 源氏物語絵巻の日本語学的研究
3. 日本語の歴史
4. 現代日本語

国際言語文化学科 竹部 歩美

・連絡先 TEL: 054-264-5341



日本語、文法、日本語史、古代語、近代語、源氏物語、
源氏物語絵巻

古代語から近代語まで連綿と続く言語変遷の流れにあるものが現代の日本語であるということを念頭に置きつつ、古代から現代までの日本語特に文法の研究を行っている。

- ・平安時代の文法、語彙、敬語の研究
- ・『源氏物語』を日本語学的に調査したうえでの精確な逐語訳の追求
- ・国宝『源氏物語絵巻』と源氏物語写本の日本語学的研究
- ・現代日本語の文法を「学校文法」の枠組みに基づいて歴史的観点から解説しようとする試み
- ・現代日本語の敬語についての調査と研究

日英語の語法・文法の認知言語学的研究/言語コミュニケーションにおける対人配慮

国際言語文化学科 田村 敏広

• 連絡先 E-Mail : tamuratoshi@u-shizuoka-ken.ac.jp



言語学、認知言語学、言葉の意味分析、英語教育、日本語教育、
言語コミュニケーション、対人配慮、言語戦略

・認知言語学では、言葉の背後には常に人間が存在し、さまざまな言語表現は私たち人間の物事の捉え方を反映していると考えます。つまり、言葉を分析すると人間の思考や認識の仕方が見えてくるのです。このような観点から文法を見ると、文法は単なる言語事実の規則化ではなく、文法はなぜそのような形をしているのか、その理由が見えてきます。このような視点は、英語教育、日本語教育に大きく役立つと考えています。

・言語コミュニケーションでやりとりされる発話は、必ずしも新情報をやりとりしているわけではありません。むしろ、意味のない発話や、すでに旧情報となった事柄を伝える発話の方が多いのではないでしょうか。このような発話の目的は、多くの場合、対人配慮です。私たちの言語コミュニケーションは対人配慮に溢れています。対人配慮の観点から見ることで、私たち自身の言語コミュニケーションの仕組みや戦略が見えてきます。



地域社会のニーズを理解し、地域の潜在力を活かし、草の根レベルの支援とSDGsの実現に目指しています。

お互いが担い手となる社会をつくる



国際関係学科 津富 宏

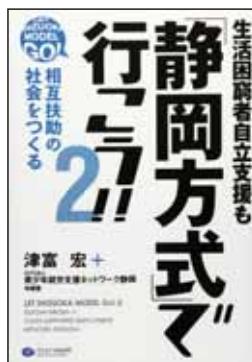
連絡先

E-Mail : tsutomi@u-shizuoka-ken.ac.jp



地域づくり、若者、社会参加、人口減少、仕事づくり、就労支援、
非行・犯罪、地域福祉、貧困、支援の生態系

専門は犯罪学です。犯罪や非行を犯した人の立ち直りを研究しているうちに、貧困、孤立、失業などのさまざまな困難を抱えている人たちに关心が向くようになりました。今は、そうした問題をもつ人もたない人を問わず、助け合える地域や社会をつくることに关心があります。研究のほかに、生活困窮者や若者の就労を支援する活動や、生活が困難な中学生の学習支援などの地域活動もしています。実際に、これらの支援をつなぎ合わせて、地域に支援の生態系をつくっていくのが今後の目標です。



地域における支援の生態系をつくることに关心があります。企業をはじめ、地域の皆さんのお知恵を借りて、人々が、この地、静岡で生き生きとした人生を手に入れるための新しい仕組みづくりを行っていきたいと思います。

ゲームと社会の可能性



国際言語文化学科

ディハーン・ジョナサン
(Jonathan deHaan)

• 連絡先 TEL : 054-264-5355



教育ゲーム、ゲームデザイン、教授法、生涯学習、教育改革、コミュニティ(地域)、
クリエイティビティ(創作性)、クリティカルシンキング(批判的思考法)、第二言語習得

ゲーム(ボードゲーム、テレビゲーム、オンラインゲームなど)を用いた第二言語指導や学習サポートとシミュレーションに関心があり、教育の向上に寄与すべく、教室、地域社会、家庭、またオンライン空間において、楽しく効果的に学習・指導する方法を研究し、その実践に取り組んでいます。

現在、ゲームラボでは以下のプロジェクトを行なっています

- ・ コミュニティ(地域)：児童館にてゲームを教え、ゲーム遊びを通して子供や家族にもたらす社会的、心理的、認知的効果を調査する。
- ・ コラボレーション(連携)：地元企業にアプローチして、彼らのビジネス手法を学び、また彼らの製品と市場を支援、発展させる方法を探る。
- ・ クリティカルシンキング(批判的思考法)：プロのゲームデザイナーと交流し、より改善されたゲームを市場投入できるよう、彼らの製作中のゲームを評価するシステムを立ち上げる。
- ・ クリエイティビティ(創作性)：高速プロトタイプを通じて、我々自らが革新的なゲームを開発する。

ゲームラボでは企業や団体と以下のようなプロジェクトを行なうことが可能である。

- (1) 革新的(教育)ゲームを作る。
- (2) 潛在的(教育)ゲームを評価し、改善する。
- (3) 学校、病院などのコミュニティ組織でゲームのプログラムを確立する。



Learn to play; play to learn.

(再生することを学ぶ、学ぶために遊ぶ。)

言語産出研究、言葉への気づき教育

国際言語文化学科 寺尾 康

・連絡先 TEL: 054-264-5252

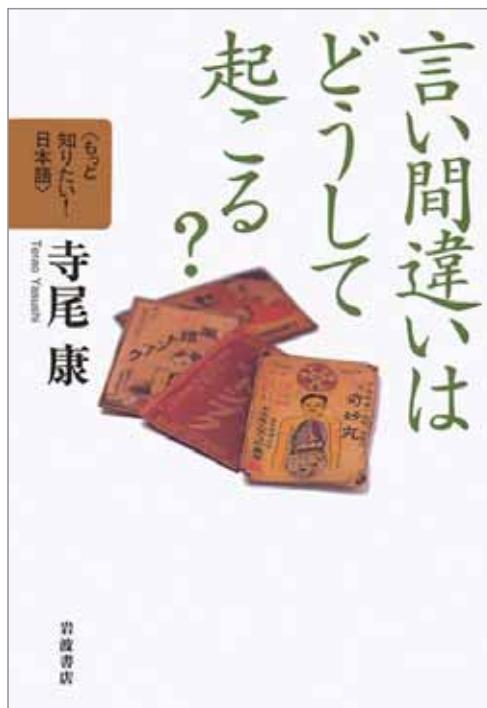


言い間違い分析、言語産出モデル、言語教育

言い間違いという、すきま的な言語資料を使ったユニークな研究
ポスト早期英語教育としての言葉への気づき教育についての研究

言い間違いはただの笑いの種になるだけではなく、言語産出の過程を知る上で重要なデータである。新聞コラムで取り上げられる日常の「間違った日本語」と呼ばれるものにも学問的な背景がある。言い間違いの観察、心理言語学的な実験を行い、言語産出モデル中の文法的符号化、音韻的符号化について研究を試みている。

小学校に必要なのは英語教育というより言語教育である、という観点から面白いことばへの気づき教材を作りたいと考えている。



宗教・インド・死を考える



国際言語文化学科 富澤 かな

•連絡先 TEL: 054-264-5344
E-Mail: t-kana@u-shizuoka-ken.ac.jp



宗教学、インド、オリエンタリズム、死生学、墓石、図書館

私の専門は宗教学で、主な研究テーマは「宗教」「インド・東洋」「死」です。まるでバラバラなテーマに見えるかと思いますが、これらはすべて、近代の日常世界からは異物と見られて、その外側に置かれてきたという共通性を持ちます。ですが実際は、どれもこの世界に大きな意味を持つ存在です。なぜこれらの存在は近代世界のスタンダードからはじき出されたのか、そのことは世界にどんな意味を持ってきたのか、いろいろと考えています。具体的には、

- ・西洋のインド理解、インドのインド理解、インドの西洋理解
- ・近代インド人と西洋人の間の「宗教」理解
- ・宗教多元論（たくさんの宗教がどう共存したり相互理解したりできるかの議論）
- ・インドのイギリス人墓地の文化的意義

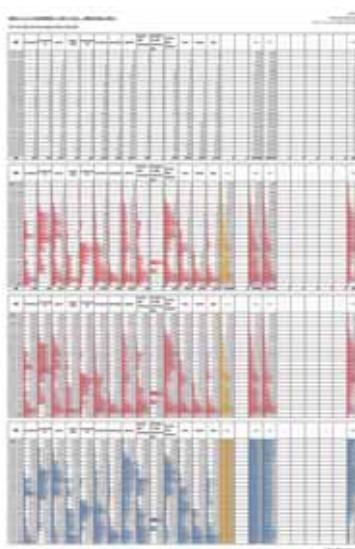
等々の問題を扱っています。



南インド、アーンドラ・プラデーシュ州のビーミリのオランダ人墓地の墓石です。この形の墓石の成り立ちを研究しています。



コルカタ（旧カルカッタ）のサウス・パーク・ストリート・セメタリーの墓石



宗教の表現の変化をたどるために新聞データベースでいろいろ調べています。



18-19世紀の英印関係も、隣人や家族の関係も、「他者」との関係という一点では共通しています。近くで遠い、さまざまな他者との関係の難しさと可能性を考えています。

総合知としてのハラールサイエンスの確立とハラール産業を通じた普遍的商品・サービスの探究



国際関係学科 富沢 壽勇

・連絡先 TEL : 054-264-5321 FAX : 054-264-5321



総合知、ハラールサイエンス、ハラール産業、イスラーム、ムスリム、
一般消費者、普遍的商品・サービス、ツーリズム、認証制度

ムスリムは現代世界で巨大な消費者層を形成しつつあり、産業界にとって無視できない存在となっている。イスラーム市場を対象としたハラール産業は食品、医薬・化粧品、衣料品から輸送・貯蔵、金融・保険、ツーリズムなどのサービス分野に至る広範な領域にまたがる。また同産業は、商品規格や品質保証、安全性などの国際基準を満たした上でハラール性を付加価値として加えつつ、認証制度を推進して、ムスリム、非ムスリムを問わず、一般消費者のニーズを満たすような普遍性の高い商品・サービスの開発を目指す具体戦略を取るのが常道になっている。このような背景に鑑み、私は人文社会科学と自然科学にまたがる総合知としての広義のハラールサイエンスの確立を提唱しつつ、グローバルな消費社会におけるローカルな価値観や多様な宗教規範を満足させる、より普遍的商品・サービスとは何かという課題を取り組んでいる。



(図1)バイオセンサー研究の民谷栄一教授（大阪大）らと日本ハラールサイエンス学会を設立し、人文社会科学と自然科学の総合知としてのハラールサイエンスの確立を進めている。本書はその試みの成果である。



(図2)イスラーム圏を射程に入れてハラール食品開発を進める県内食品卸企業との共同研究の成果の一端として関係者に配布された「しづおかムスリムおもてなしガイドブック」。（富士農商事株式会社との共同研究による成果）



グローバル展開を目指す企業のハラール対応や、国内のムスリムツーリズム対応などに関し、講演や相談などのご協力はできます。

さまざまな言語表現を素材として、人間のこころにある「言語」の仕組みを明らかにする研究



国際関係学研究科
(大学院) 比較文化専攻 長野 明子

●ホームページ <https://researchmap.jp/7000004456>

(本研究内容についてご興味のある方は、地域・産学連携推進室までご連絡ください。
(TEL : 054-264-5124 E-Mail : renkei@u-shizuoka-ken.ac.jp)

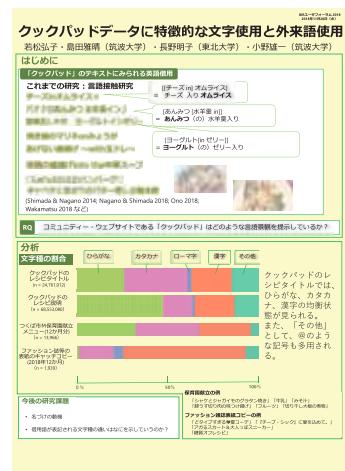


文法、語彙、普遍性と多様性、名づけ、言語接触

現代言語学の最終目標は、人間のこころにある抽象的で複雑な体系としての「言語」に到達することである。しかし、登攀ルートとしては、身近にある非常に具体的な言語表現やコミュニケーション活動をよく観察すること以外に近道はない。私の研究では、【単語】や【名前】のレベルを中心にして、具体事例からメタ的な構造をとりだすことを行っている(図1)。近年取り組んでいるのは、日本語と英語といった異なる2つの言語が混交する現象である。図2にあるのは、国立情報学研究所が提供する「クックパッドデータセット」を用い、クックパッドでの料理名や料理手順の説明に、どのような文字がどの程度使われているかを調べた研究である。また、日本語の地域方言の豊かさに注目し、福岡県や熊本県のシルバー人材センターとの共同研究も実施してきた。



図1 言語理論についての研究
西山・長野 (2020)『形態論とレキシコン』
開拓社、東京。



中国の文化政策と華人ネットワークの援用・創出に関する実証的研究

国際言語文化学科 奈倉 京子

・連絡先 TEL : 054-264-5346



中国、華人、中国語教育、華裔留学生、ネットワーク、
間文化的媒介者、文化的公民権

本研究は、「華南地域（中国の沿海地域に加え、香港、マカオ、台湾、東南アジア華人社会を含めた拡大地域）」を対象に、中国の文化政策が、既存の社会的ネットワークをどのように利用し、また逆に、どのようなプロセスで新たなタイプのネットワークや人の移動を創出しているかを明らかにすることを目的としている。具体的には、中国政府による公式的な中国語教育普及取り組み（孔子学院の設立や留学生募集等）による「普通語（標準中国語）世界」と、東南アジアの伝統的な華文教育並びに華人社団による非公式的な中国文化継承の取り組みに支えられたローカルな「方言」「華語」社会とがどのような相互作用を展開しているのか、その実態を行為者の視点から明らかにすることである。とりわけ、東南アジア華人新世代の中国留学現象に注目する。これらの考察を通して、「華南地域」が今日どのような地域空間として変容を遂げつつあるのかを探求する。



広東省台山市の「騎樓」。1920年、30年代以降、華僑華人の故郷に広く見られるようになった特有の建築様式。1階が店舗、2階以上が住居になっているが、2階から上が歩道の上に突き出てアーケード状になっており、通りに面する部分は雨を避けて歩くことができる廊下になっている。



マレーシア華人の墓地。ルーツを大切にしている。



中国政府、華人社会の双方にとって華人新世代（華裔）の中国留学は長期的な「ソフトパワー」となるでしょう。中国経済の発展に華人の存在は欠かせません。中国と東南アジアとの経済関係構築にとって、華裔留学生は間文化的媒介者となるでしょう。このような新たな人の移動現象を知っておくことは中国や東南アジアへ進出しようとする企業にとっても大切なことだと思います。

ビザンティン帝国史およびギリシャ文化史の研究

国際言語文化学科 橋川 裕之

・連絡先 E-Mail : hashikawa@u-shizuoka-ken.ac.jp



古代ギリシャ・ローマ文明、ビザンティン帝国、ヘレニズム、
キリスト教、哲学、歴史叙述

私の専門は広く言えば西洋史学あるいはヨーロッパ史学、狭く言えば、東ローマ／ビザンティン帝国の研究です。ビザンティン帝国とはコンスタンティノープル(今日のイスタンブル)を首都として、1453年まで存続した東方のローマ帝国のことです。「ローマ人の共和国」(ラテン語でRes publica Romana)つまり正式なローマ帝国を標榜したこの国家で生じた様々な事件や現象、社会・文化・制度の特質と変化のプロセスなどを当時の様々な史料にもとづいて解明することが私の課題です。ここ何年かは、世界史におけるビザンティン帝国の役割、すなわち、中世に栄えたこの国家が古代世界から何を受け継ぎ、周辺世界(たとえばルネサンス期のイタリア)や後の世代に何を引き渡したかという問題にも取り組んでいます。



皇帝ユスティニアヌスと皇妃テオドラ
ラヴェンナのサン・ヴィターレ教会のモザイク



ローマのサン・ピエトロ広場



私の専門にかかるトピックのレクチャー等、対応可能です。

教科外の教育活動の歴史社会学研究

国際言語文化学科

橋本 勝

・連絡先 TEI : 054-264-5243



教育、社会、教師、特別活動、学校行事、運動会

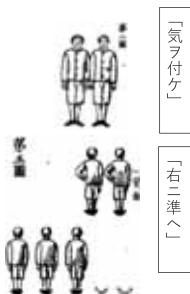
私は、日本の小学校における「教科外の教育活動」の歴史を研究しています。日本の小・中学校ならびに高校のカリキュラムは、国語や社会、数学などの教科の領域と、道徳や特別活動など教科外の教育領域から編成されています。この中の特別活動は、学級・ホームルームを単位とする活動や、全校生徒による生徒会活動、そして、運動会や展覧会や学芸会などの学校行事を内容としておりますが、私は、おもに学校行事の歴史を調べてまいりました。

運動会は、種目の一つとして、気を付け！・右にならえ！・まわれ右！などの「隊列運動」が行われた。運動会は、近代的な「規律訓練」を普及させるメディアでもあった。

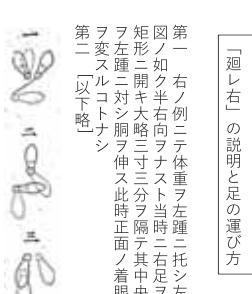
遠く離れた埼玉県と静岡県の高等女学校で同じような運動会を実施している。運動会はある特定の社会階層の文化や、ジンジャー文化の醸成装置でもあった。

初期の運動会の記事

北足立郡蕨宿頭神学校にては去月〔10月〕九日を以て同郡新曾村妙見寺に向け遠足運動を催せり〔略〕進路は中仙道を南に取り行く数丁余更に右折して又數丁を歩せば戸田学校(新曾分教室)に至る茲にて暫時休憩して後軽体操〔隊列運動〕を行ひて終て又隊伍を整へ道を西に取り暫らくして妙見寺に着す〔略〕
培才教育詳記 第62号 明治21年11月5日



水野浩『新撰体操書』(明治19年)



廣瀬伊三郎『新式隊列運動法』
(明治20年)



浦和高等女学校の運動会
(明治42年) 桶川県教育局 第4卷



田方郡立三島高等女学校の運動会（大正2年）
三島HP（自分で見る「三島の歴史」27,000年のあゆみ）



教育の歴史社会学を研究しています

ロシアのユーラシア・アイデンティティの研究

国際関係学科 浜 由樹子

・連絡先 E-Mail : yhama@u-shizuoka-ken.ac.jp



ロシア、国際政治、アイデンティティ、ユーラシア主義、
イデオロギー、比較思想史、アジア主義

国際政治と国家・地域のアイデンティティ（「我々はどこに属するのか」「我が国とは何か」）の関係について研究している。主たる事例として、これまでロシアと日本を取り上げてきた。いずれも、近代化の開始以来、ヨーロッパとアジア、西と東の間で独特的のアイデンティティ形成を進め、歴史的転換点を迎えるたびにこの問いに向かっていった国・地域である。

ソ連邦解体後のロシア社会では「ロシアとは何か」が切実に問われた。なかでも、ロシアを「ヨーロッパとアジアの間の独特な多民族・多文化地域」と定義したユーラシア主義と呼ばれる思想は、幅広い層からの注目を集め、今ではロシアの外交理念にも影響を与えている。国際政治における現代ロシアをどう捉えるか、日本はこれにどう向き合っていくことができるか——「ユーラシア」概念をキーに考察している。



「ロシア：ヨーロッパとアジアの間」



国際政治における思想、イデオロギー、プロパガンダについてもレクチャー等が可能。

福沢諭吉の全集未収録社説の発掘



国際言語文化学科 平山 洋

・連絡先 TEL : 054-264-5388 FAX : 054-264-5388



福沢諭吉、時事新報、石河幹明、井田進也、丸山真男、脱亜論、
安川寿之輔、慶應義塾、日清戦争

福沢諭吉(1835～1901)が主宰していた新聞『時事新報』(1882～1936)の社説の起草者を新たな方法論によって判別したうえ、その中から福沢由来の社説を選び出すことでジャーナリストとしての福沢の全体像を再構成しようとしています。加えて判別の方法論の確立のために、まず福沢の署名入著作の本文をデータベース化し、それらを基礎資料としつつ、無署名社説と語彙・文体の比較を行っています。福沢執筆と推定される全集非収録社説はテキスト化して、署名入著作ともどもネット上のサイト「平山洋氏の仕事」で公開しています。

本研究の具体的な目的は福沢健全期(1882・3～1898・9)の全社説の起草者を判定することで、現行版福沢全集の「時事新報論集」(第9巻～第16巻)に適切な加除を施すことです。



福沢諭吉の思想について研究しています。